

長岡京左京六条三坊・水垂遺跡 (水垂D区) 発掘調査現地説明会資料

1993.10.09

所在地 京都市伏見区淀樋爪町
調査期間 1993.04.01～継続中
調査面積 約12000m²
調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

1.はじめに

調査は、京都市清掃局の埋立処分地拡張工事に伴うもので、今回は調査予定地の北東部にあたるD区の報告をします。ここでは長岡京の道路や建物跡、古墳時代の集落跡を発見しました。

2.調査の概要

古墳時代の遺構

古墳時代の遺構としては^{ほったてはら}竪穴住居・掘立柱建物からなる集落跡がみつかりました。集落は、北西方向から流れ調査区の南部で合流する2条の河川に挟まれた地区と河川左岸の微高地上に広がっています。現在までに竪穴住居56棟、掘立柱建物14棟がみつかっています。集落の営まれた時期は古墳時代前期～古墳時代後期(4世紀前半～6世紀後半)までの間と考えられ、住居跡には多いもので4～5回の建て替えが認められます。みつかった竪穴住居はいずれも方形で、大きさは一辺3mの小型のものから一辺7mを超える大型のものまでありますが、5m前後のものがほとんどです。住居内には^{かまど}炉あるいは竈があり、貯蔵穴をもっているものもあります。掘立柱建物は1×2間や2×3間の小型のものが多く、最大で3×4間のものがあります。中には東柱を備えた高床倉庫と考えられるものもあります。

集落の東側では小穴が点々と連なる遺構群がみつかりました。これは畑の耕作に関係するものと考えられますが、栽培していた作物の種類は今のところよくわかりません。

集落を囲む2条の河川は幅10～15m、深さ1.5～3mで、一部に水量調節用の^{せき}堰が認められます。これらの河川も集落が終焉を迎える古墳時代後期には埋没してしまいます。

この河川からは多くの遺物がみつかりました。土器類では土師器（壺・甕・高杯・器台・鉢）、須恵器（甕・はそう・杯・高杯）があります。木製品では農具（鋤・鍬・馬鍬・田下駄・杵・臼）や容器（盤・槽）が多く、また、建物に使用されていた部材（柱・階段・扉）もみつかっています。このほかに網の重りと考えられる土錘や石錘もみつかっています。

長岡京期の遺構

調査区の東端で東三坊第一小路と六条第一小路（六条条間南小路）の交差点がみつかり、左京六条三坊一町の南半部と二町の北半部、七、八町の宅地の一部を確認しました。一町と二町の宅地で掘立柱建物、井戸、土壇などがみつかりましたが、前回調査した二町の南半部（E1区）と比較すると建物の密度は高くありません。

また、この地区では幅30～50cm、深さ10～50cmの小溝群がみつかりました。これは耕作に関係するものと考えられるもので、東西あるいは南北方向に2～3m間隔で整然と並んでいます。

3.まとめ

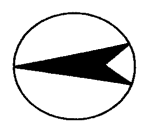
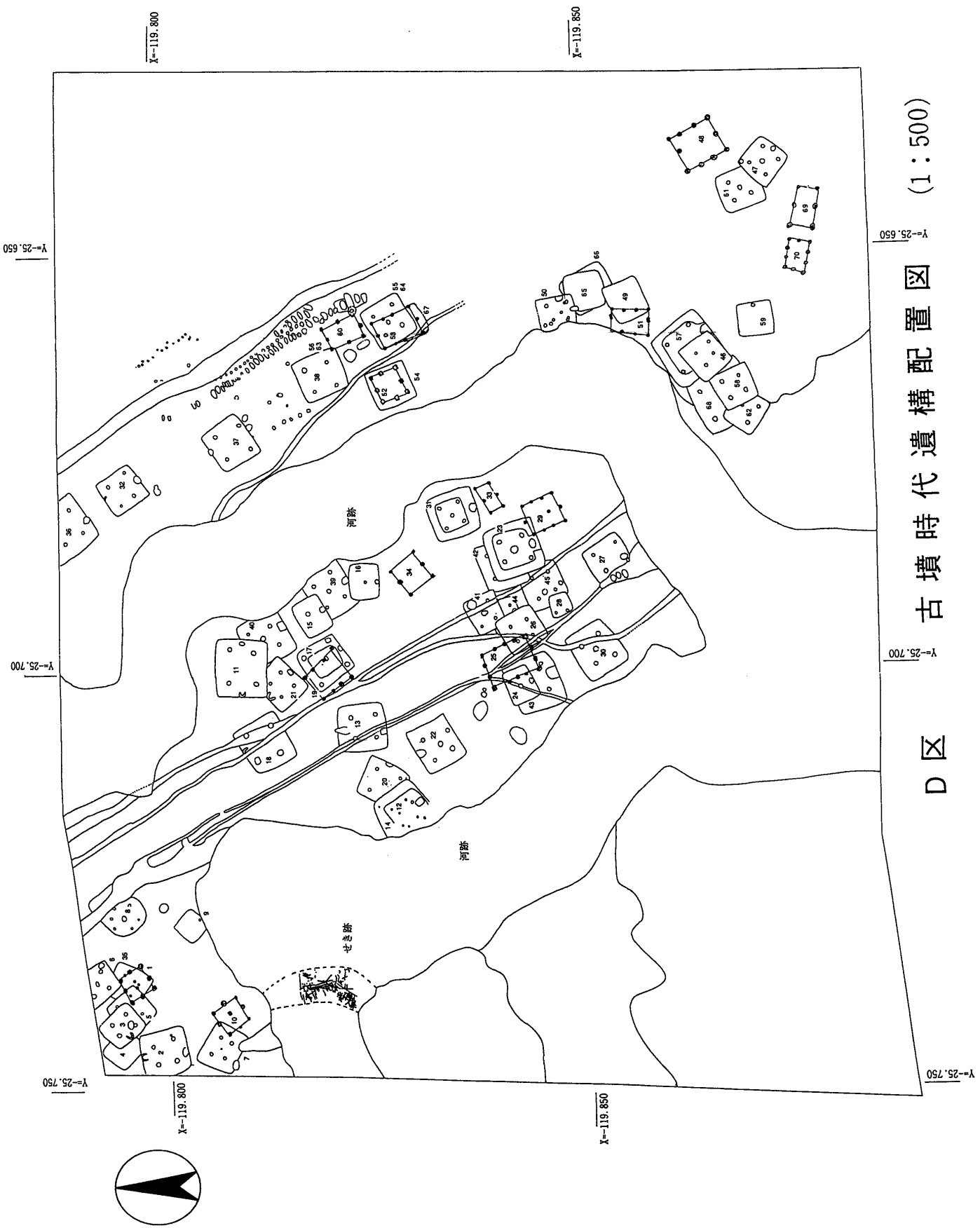
今回の調査では二つの大きな成果がありました。

その一つは古墳時代の住居跡の発見です。これまでの調査で水田跡や畑跡（E・F・G区）、墓跡（E区）を確認していますが、今回住居跡が発見されたことによって居住・生産・墓の区域がそろって見つかったこととなります。これは当時の集落の様子を知る上ではきわめて貴重な発見です。今後、みつかった遺物などの資料を整理すればより具体的に当時の生活の様子がわかってくるでしょう。

もう一つの成果は長岡京期の小溝群の発見です。この溝はここで大規模な耕作が行われていたことを示すもので、長岡京内の土地利用について新たな資料をあたえてくれました。

今回の報告は以上ですが、現在調査している古墳時代の集落の下層には弥生時代の遺構のあることが予想されています。今後の調査にもご期待ください。

D区 古墳時代遺構配置図 (1:500)



008.611-X

008.619-X

Y=25.750

Y=25.700

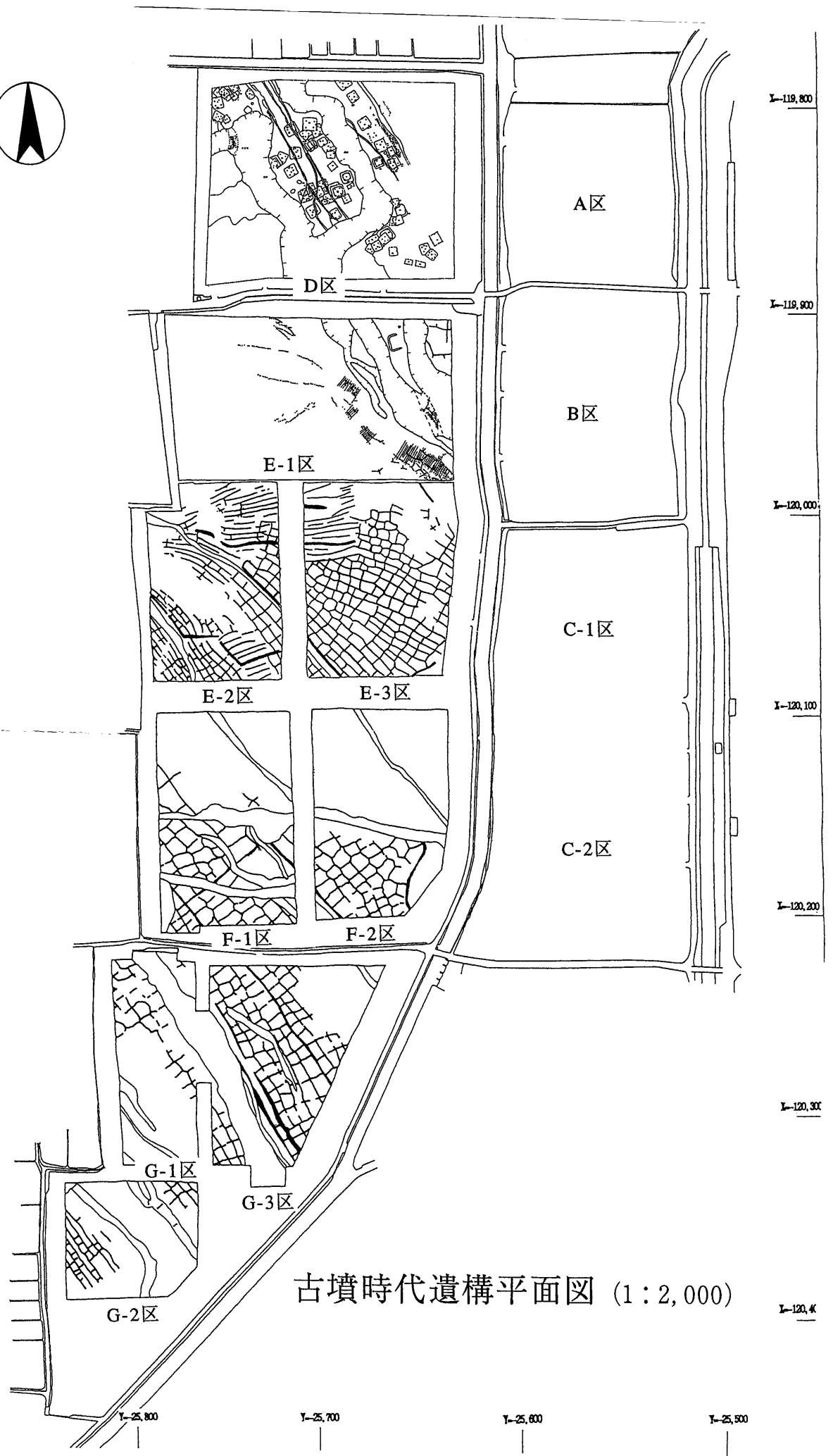
Y=25.650

008.611-X

008.619-X

Y=25.650

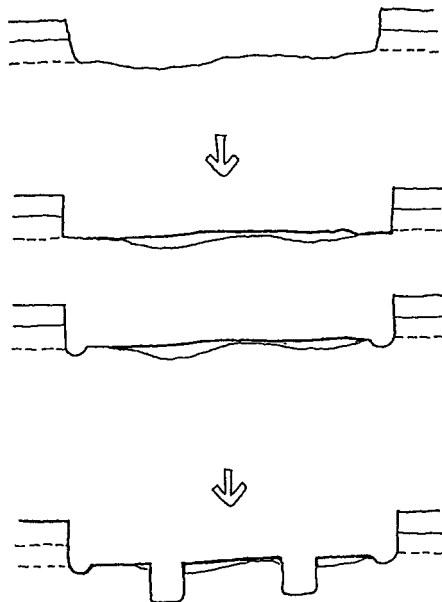
Y=25.750



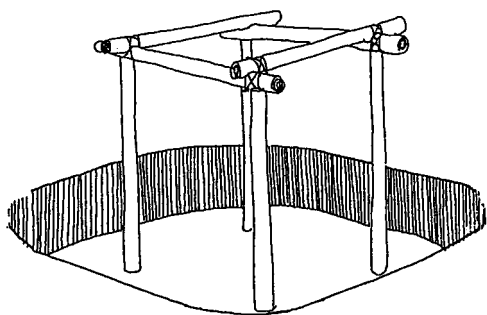
古墳時代遺構平面図 (1 : 2,000)

竪穴住居の作り方

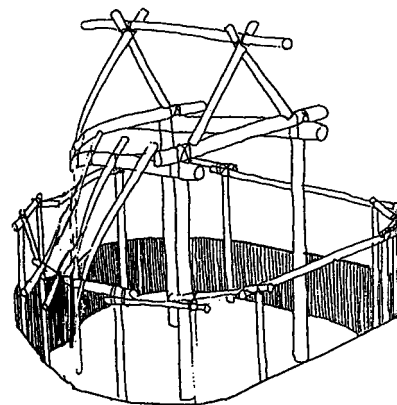
1. 床面をつくる



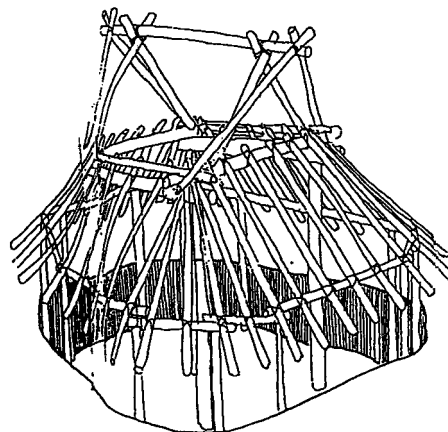
2. 柱をたてる



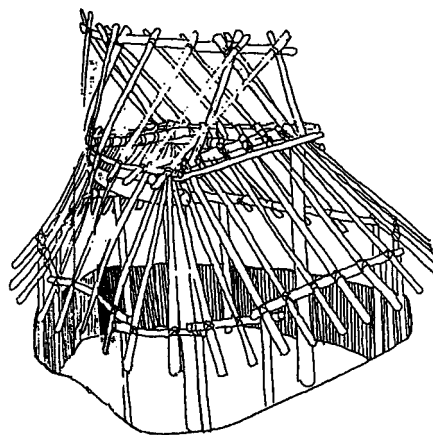
3. 屋根を組む



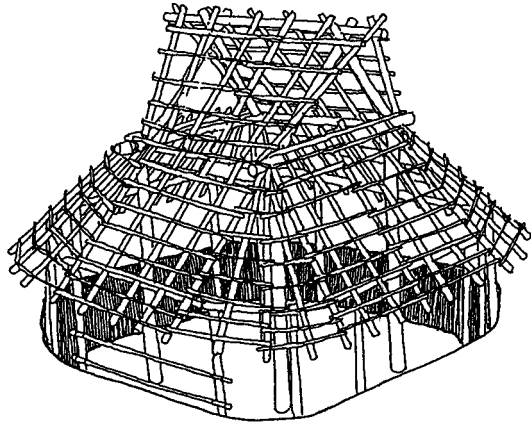
4.



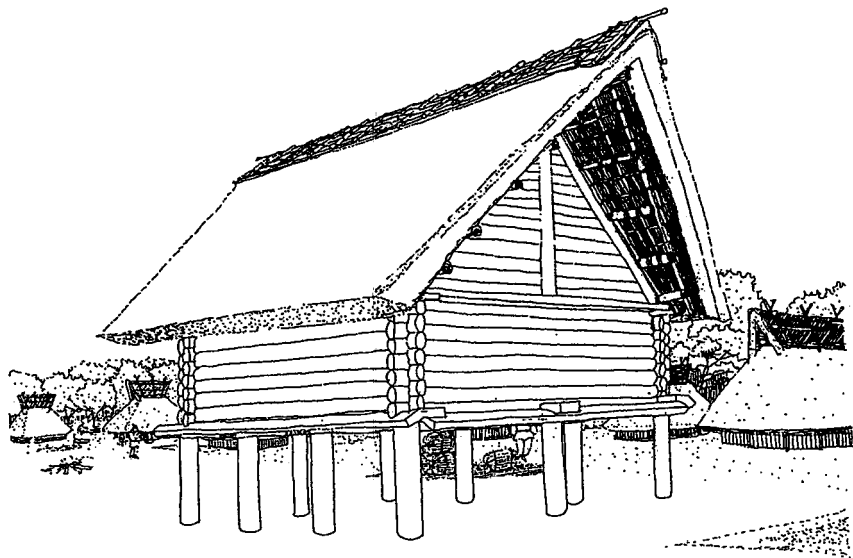
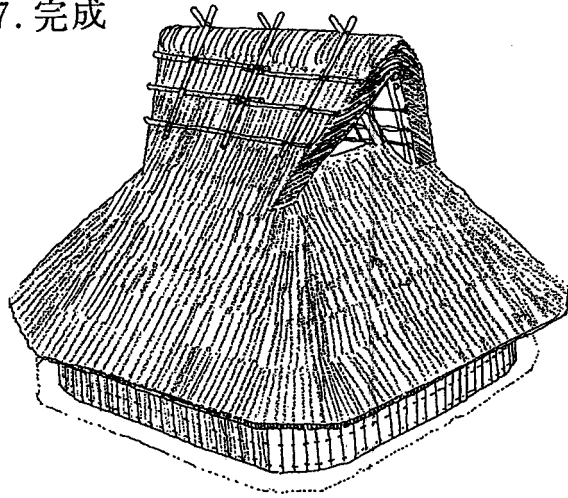
5.



6.



7. 完成



掘立柱建物（倉庫）の復原図